



# は虫類、両生類、魚類、貝類

は虫類は 4 科 9 種、両生類は 4 科 9 種、魚類は 3 科 7 種、貝類は 16 科 45 種の主に落葉樹林帯～亜高山帯に生息する種が確認されています。

## 絶滅のおそれのある種 (IUCN・環境省・県のレッドデータブック等掲載種)



ヒメビロウドマイマイ ○★



アマゴ ◎○○★

絶滅のおそれのある種として、は虫類 4 種、両生類 9 種、魚類 3 種、貝類 18 種が確認されています。これらの種は、生息環境の悪化や移入種との競合等による個体数の減少がそのまま継続すると、絶滅の可能性が高いと予測されています。

南アルプスで見られる種のうち、IUCN (レッドリスト) では両生類のほとんどが「低懸念」、魚類のアマゴが「絶滅危惧種」として掲載されています。また、環境省 (レッドリスト) では両生類のアカイシサンショウウオ、貝類のツバクロイワギセル、ヒメビロウドマイマイが「絶滅危惧種」として掲載されています。

## 分布が日本に限られている種 (分布域の広い種)



シムグリ (幼蛇) ★



タゴガエル ◎★

日本に生息するは虫類、両生類、淡水魚類、陸・淡水産貝類の多くが日本固有種であり、大陸と陸続きであった時代に渡ってきた動物が、日本列島として分離された中で、種レベルまで分化していった過程を表しています。

南アルプスに生息するは虫類のニホンカナヘビ、シムグリ、ニホンマムシ等や両生類のタゴガエル、カジカガエル等、淡水魚類のカジカは日本に広く分布しています。

## 生息地に定着する種



アカイシサンショウウオ ■◎○○★



カドコオオベソマイマイ ○★

日本に生息する両生類、陸産貝類のうち、移動・分布拡大能力の低いもの、特定の環境に生息するものなどは定着性が高いといえます。

南アルプスに生息する陸産貝類のツバクロイワギセル、カドコオオベソマイマイ等は、本州中部の山岳地帯に分布が限定されています。一方、サンショウウオ類の中でもアカイシサンショウウオの分布域は狭く、静岡県、長野県の赤石山脈南部での確認にとどまっています。なお、分布が限定される種や定着性の高い種は、生息地の消失や地域個体群の絶滅がその種の絶滅につながるため、その生息地は保全上重要な場所となります。

## 在来の個体群の維持 (移入種の問題)



ヤマトイワナ ●★



ニッコウイワナ (移入種)

南アルプスの溪流には、ヤマトイワナやアマゴが天然分布していますが、過去に漁獲対象魚種として放流された別亜種のニッコウイワナやヤマメが移入し、在来種の遺伝的攪乱が危惧されています。

なお、ヤマトイワナは、本州中部地方の太平洋側と紀伊半島の山岳地帯の河川に生息しますが、ニッコウイワナとの交雑が確認されています。